

田市提案の利根運河流域を対象とした「自然や歴史と調和した美しい地域空間実現方策調査」が終了しました。その結果、重点的な取組事項として、核となる利根運河について地域の自然や歴史的資源を将来にわたって守り、活かし、さらに魅力あるものとするために、先導的な取り組みが提案されました。

この提案を受けて、平成19年度から利根運河の河川管理者である国土交通省が利根運河流域の目指すべき将来像を共有したうえで、目標を掲げて役割分担を行い、各自治体が連携して具体的な事業展開につなげていく必要があるとして、学識経験者・国・県・市・関係活動団体で構成する「利根運河協議会」を設立し、同年11月21日に第1回目の協議会が開催されました。

第1回協議会では、①平成18年度国土施策創発調査「自然や歴史と調和した美しい地域空間実現方策調査」の概要、②「利根運河協議会」の検討項目、③協議会スケジュールについて協議され、同年度から20年度までの自然環境部会・社会環境部会を含めた利根運河協議会全体のスケジュールが提案されており、今後、利根運河エコパークの実現を目指し、協議されます。



※（仮称）利根運河エコパークとは、都市・地域住民の参加により、利根運河を核として自然・歴史・文化体験ができる水辺空間のことをいい、新しいコンセプトによる利根運河の活用計画事業です。



多くの人たちの憩いの場としても

●利根運河の歴史

利根運河は、利根川、江戸川間の水上輸送の利便を図るため、オランダ人技師ムルデルの指導のもと、3年の歳月をかけて明治23（1890）年に完成した人工の水路です。

運河の完成により、航行する時間が大幅に短縮され、二日に百隻を超える船で賑わっていましたが、昭和に入り、鉄道の発達や道路整備が進んだことに加え、たび重なる大洪水に見舞われ、大きな被害を受けたため、昭和16（1941）年、運河としての役割を終えました。

その後、昭和50（1975）年からは、野田緊急暫定導水路として、利根川口の堤防が取り払われ、利根川からの分水が始まりましたが、平成12年から稼動した北千葉導水路事業により、野田緊急暫定導水路としての役割は終了しました。

